

平成 17 年度教師海外研修（派遣国：モンゴル）実践報告書

文京学院大学女子高等学校
高石和人

タイトル：「モンゴル 360° の視界」遠くて近い国モンゴル 異文化理解 そして自己理解

実践教科：音楽（時間数：2 時間）

対象生徒・学年：高校 1 年生

対象人数：386 名

カリキュラム案

(1)実践の目的

- 同じアジアの国であるモンゴルへの興味関心を持たせる。
- 開発援助の実態を知り、何が自分たちにできるのか考える。

(2)授業の構成案

9 月 1 日実施 1 時間目

モンゴルの自然、社会環境、遊牧民の生活を知る。モンゴルの子供たちの生活、学校生活、日本の開発援助について全体に話をする。

10 月 6 日実施 2 時間目

高校 1 年生全員を対象に行い、前回話したことの確認を対話形式で行い、説明の不足している事柄を伝え、日本の開発援助について考える。

時限・テーマ・ねらい	方法・内容	使用教材
1 時限目（15 分） 「モンゴル旅行記」 モンゴルへの興味関心を持たせる。	始業日、学校長訓話の後、モンゴルの報告をする。会場のホールに 1 学年、ホールの映像放送を通して、他学年合計約 1200 名の生徒を対象として行った。 パワーポイントを使用して、モンゴルで撮影した写真を見せ、民族衣装のデールを着て、モンゴルの民俗音楽を流しながら話をする。①自然・社会環境②ODA の学校建築・改修③子供たちの様子④遊牧民の生活	・パワーポイントで撮影したモンゴルの写真 ・民族衣装のデール ・モンゴル民俗音楽の CD
2 時限目（1 時間 30 分） 「モンゴルは遠くて近い国異文化理解そして自己理解」	高校 1 年生の講演会で、国際理解教育の一環として、モンゴルを取り上げる。9 月 1 日の始業日にモンゴルの概要を話したが、クイズ形式で前回話した内容を確認する。一方的な講演にならないように、生徒に発問し、やり取りする場をつくり、自分で考え、自分の言葉で発言できる会にする。 目標と進め方 ○前回話したことの確認を対話形式で行い、説明の不足している事柄も伝え、モンゴルへの理解を深め、身近な存在として感じられるようにする。 ○日本の開発援助の実態を知り、何が自分たちにできるのか考える。 ①前回の確認と遊牧民の生活 ②火力発電所視察の報告 ③青年海外協力隊員及びシニア海外ボランティアの活動状況 ③日本の開発援助 ④自分たちのできることは何か。意見交換	・パワーポイントで撮影したモンゴルの写真 ・民族衣装のデール ・モンゴル民俗音楽 CD

・ 1 時間目 (15 分)

1. 日時：9月1日(木) 始業式 9時20分～9時35分
2. 目標：モンゴルへの興味関心を持たせる
3. 実施項目
 - ①モンゴルの自然・社会環境
 - ②ODAの学校建築・改修
 - ③子供たちの様子
 - ④遊牧民の生活
4. 実施内容
 - (1) デール(民族衣装)を着て、モンゴル民族音楽団の演奏を流す中登場し、モンゴル語を話す。
 - (2) パワーポイント【資料①、②】を見せながら、モンゴルの自然環境、社会状況、人々の暮らしを簡単に説明する。
 - (3) 【資料③、④】の写真で訪問したピースウインズの子供たちについて話をする。
 - (4) 【資料⑤】でモンゴルの学校制度、学校施設の様子、ODAによる校舎新築、改築の話をする。
 - (5) 【資料⑥～⑩】で遊牧民の暮らし、生活の在りようについて話す。
 - (6) 最後に【資料⑫～⑭】を見せながら、モンゴル語の詩を読み上げて終わる。

○生徒は上記の見慣れない写真を見ながらいろいろな思いを持ったようである。目的とした関心を持つきっかけとなったと思う。
5. 反省・感想と今後について

当初から始業日の一部の時間だけという予定であり、モンゴルについて十分に説明する時間がないので、生徒に少しでも関心を持たせることを目的とした。これを機会としてモンゴルの地図を見て、関する本を読む生徒が出てくれればと思った。図書館ではモンゴルコーナーを作ってもらい、学校広報部では本学院の生徒、学生、保護者、卒業生が読む広報誌「ぶんきょう新聞」の8月号、9月号に2回、特集を組んで取り上げてもらった。モンゴル研修から感じたこと、伝えたいことを広く伝える場を得ることができた。教職員にはモンゴル旅行記を8月末に全員に配布し、興味関心を持ってもらえるようにした。先生方からいろいろな質問を受けそれに答える機会を作れた。生徒からもモンゴルの暮らし、現地でのODAの活動、NPO・NGOの活動などについて質問を受けた。実態を知らせることの大切さを感じた。できるだけ関心を高め、次の高校1年生対象(全員参加)の講演会につなげていきたい。8月末から9月当初と広報活動に努め、その成果があったと考える。

・ 2 時間目 (1 時間 30 分)

1. 日時：10月6日(木) 講演会 午後1時30分～3時
2. 目標と進め方：
 - 前回話したことの確認を対話形式で行い、説明の不足している事柄を伝え、モンゴルへの理解を深め、身近な存在として感じられるようにする。
 - 日本の開発援助の実態を知り、何が自分たちにできるのか考える。
3. 具体的な進め方：
 - (1)前回の確認と遊牧民の生活
 - ①～ の写真を見せながら発問し、生徒に答えさせる。ホールの大きなスクリーンにパワーポイントで現地の写真、映像、質問事項を映し出し、生徒は手元のプリントに記入しながら進めていく。できるだけ多くの生徒たちの声を聞くようにする。

○半年冬

- 夏は暑く乾燥している
- 夏休みが2ヶ月以上ある
- 学校は2部制・3部制
- 算数が得意
- 遊牧民の飼っている家畜はヤギ（ヤマー）、羊（ホン）、牛（ウフル）、馬（アドー）、らくだ（テメー）
- 一番のご馳走は羊
- 羊は煮て食べる
- 季節で移動するのはなぜ？
- 電気はあるのか？

(2)火力発電所視察の報告

- ロシアの援助でできたが、現在は日本の援助
- 発電のための熱湯は？
- コントロール室で働いているのは？

(3)日本の開発援助、青年海外協力隊員およびシニア海外ボランティアの活動

- なぜ学校の改修工事をするのか？
- 学校の修理は誰がするのか？
- 遊牧民はどうやって学校に通うのか？
- テニスの指導
- 第十治療幼稚園の活動
- NGO、NPOの活動について「ピース ウインズ ジャパン」

(4)自分たちのできることは何か。意見交換

- 今できること
- 将来できること

4. 反省・感想

1時間30分という時間、生徒に集中させることが難しく、出来るだけ生徒の発言、質問、意見を言わせるよう活動的な講演となるように考えた。生徒が知ったこと感じたことをゆっくり考え直す時間も必要であり、1回で全てをやることには無理があったかと思う。また参加型の授業を行うことを考えていたが、講義的な授業になってしまったように感じる。目標の1つであった、モンゴルへの興味関心、モンゴルを身近に感じたかについては次に生徒の感想を掲載する。

・生徒の感想 抜粋

- 短い時間だったけれど、モンゴルについての知識が深まりました。日本人とモンゴル人は顔も似ていて、親近感があると思ったけれど、生活のことを考えると違いすぎるなと感じました。今まで全く知らなかった国が短い時間で知ることができました。
- 地平線での映像がとてもきれいでした。東京では絶対見られないので、1度見てみたいなと思いました。

- 日本とモンゴルがメールでやり取りできると考えたら、そんなに遅れている国ではないということを知った。日本に比べて、仕事がない人などが多く、たいへんな生活だと思うが、そこでみんな1人1人毎日を楽しんでいるように見え、少しくらいやましい気もしました。私は将来、青年海外協力隊に参加して世界の人々を助けたいと思っている。
- 遠い国と思っていたけれど、日本に関わりがあってどこか嬉しい気持ちになりました。同じ地球に、同じアジアにある国なのだが、全く日本とは違う世界で。そう考えるととても不思議な気持ちになりました。
- モンゴルの一番よいなと思ったことは、誰にでも優しく、お客さんを快く歓迎してくれるということです。それを聞いた時、なんて心が優しいのだろうと思いました。日本ではモンゴルの人たちより優しくないと思います。だからもっと周りの人たちに優しく、心の広い人にならなければいけないと思います。そして、日本だけを見ずにもっと視野を広くし、世界を見ていくことが大切なのではないかと私は思います。
- モンゴルの子供が日本の子供もより、目が輝いているし、生き生きしているということを知って日本と比べ、物が豊かではない分、人と人との触れ合いが多いから、みんな幸せそうに見えるのかなと思いました。
- 私たちの学校とはえらい、違いでした。私たちは本当に恵まれた環境で授業を受けているのに、私は真面目に勉強していない。モンゴルの子供たちの学校の状況を聞いて、今の自分の周りの環境の有難さを改めて痛感し、もっと私も頑張ろうと思いました。
- 日本がモンゴルに対し、様々な面で援助していることを知りませんでした。モンゴル以外にも日本はいろいろな国を援助していることをテレビなどで知りました。どのような援助をしているのかは知りません。私は日本がどのような援助をしているのかを知ることが大切なのではないかと思いました。これからもモンゴルや同じアジアの国々について学んでいきたいです。
- 今回、講演を聞いて改めて日本と海外の文化や生活習慣の違いを感じました。また、同じモンゴルの中でも生活が違うのだと思いました。

講演の最後に「私たちに何ができるでしょうか」と疑問を投げかけた。それについて

- 現時点で私に出来ることはないかもしれないけれど、せめて世界にはこうやって生きている人たちがいるのだということを忘れないようにしたい。そしていつかチャンスがあったら、私は少しでも助けられるように積極的に行動したいと思う。
- 今の私たちが出来ることはあまりにも限られています。お金だけでは買えないものをたくさんあげたいと思います。そして、物が豊かでないからこそ幸せなのだと思います。将来、人の幸せについて考えることがあれば、今回のお話を思い出したいです。
- 私たちの年齢で実際モンゴルに行って支援するというのは少し難しいことだと思います。だから日本で出来ることを考えます。1つ目は積極的に募金をする。募金をすれば学校だってきれいになるし、食料だって不自由しない。お金は支援する上で最も大切なこと

だと思っています。2つ目は人々に現実を伝えていくことだと思っています。今日聞いたことをまた誰かに伝えることによって日本人の考え方が変わっていくかもしれません。

○今、私たちに出来ることは小さいことだと思う。それはモンゴルの文化、そして現状を知ることだと思う。学校のことは一番とっても考えなくてはならない問題。自分たちにだけではなく、他国のことも知っていき、今後の私たちが出来ることを増やしていけばと思いました。

○お金の援助も大切だと思うが、日本の高度な技術を教えて国の発展に協力するのがいいと思う。私たちはモンゴルという国のことを知ることからはじめる必要があると思った。

○先進国といわれる日本の良いところを伝えるということです。そして自然や文化を壊さないで、新しいモンゴルになるとよいです。

○こんなにも経済格差があつていいものかと考えさせられました。モンゴルの貧しい生活を良くするために私たちの出来ることは、無駄使いをしないでリサイクルをしたりして、資源を有効に使い、今まで無駄使いしていた分をモンゴルの人々に援助していったらいいのではないかと思います。

○モンゴルへの募金。動物を大切にする。モンゴルの情報を取り入れて知識を得る。

○子供たちの夢を聞いてあげることだと思った。

○貧しい子供たちに学校へ行かせてあげたり、温かい洋服をあげたり、栄養のバランスのとれた食事をとらせてあげたいと思います。しかし何かしたらよいのか分かりません。募金しても、そのお金がちゃんと現地の人々に届いているか。モンゴルだけではなく、様々な国の子供たちについて知りたいと改めて強く感じました。

○今はまだ支援していくということしか思い浮かばないけど、これからどんどんモンゴルについて知っていった時に一番よい方法を考えたいです。

○教育などに必要な道具やお金を集めて送ることは、行動にさえ移せば出来、役立つことではないかと思う。これからも考えて生きたいことだと思った。

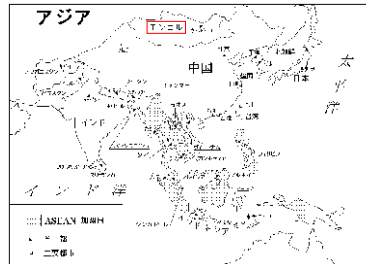
トピックス：私の家にはモンゴルのお相撲さんがいるのでモンゴルのことは知っています。食べ物は私には合いません。

生徒は普段の生活と異なるモンゴルの様子を単に比較し、どちらがよいかと比べるのではなく、なぜそのようになるのかしっかり受け止めてくれたようである。教師として、モンゴルの研修を体験した者として、生徒に全てを伝え、肌で感じさせ、それを基に生徒自身に考えさせることが、自分の大切な役目であると考えていた。思っていた以上に生徒は関心を持ってくれたようであった。自分が話したことから興味関心、考えが広がっている生徒もいるので、これをきっかけとして次の一步を踏み出せるようサポートしていきたい。

資料・引用文献

- ・小長谷有紀『世界の食文化(3) モンゴル』農山漁村文化協会、2005
- ・「地球の歩き方」編集室（編）『地球の歩き方 モンゴル <2005～2006年版>』ダイヤモンドビック社、2005
- ・現地で購入した民族衣装（デール）、ゲルの模型、シャガーイ
- ・現地で撮影した写真

パワーポイント写真



写真① 写真② モンゴルはどこですか？



子供は元気



写真③ 写真④ この子供たちに自分は何が出来るのだろうか



マイナス30度の隙間風は
どれだけたいへんだろう
雨漏り、隙間風をなくしただけで
子供たちは戻ってきた



写真⑤ 写真⑥ 羊を見ておいしそうだと思うようになりました



写真⑦遊牧民の生活です



写真⑧馬の乳搾り。子どもはよく働きます



写真⑨みんな仲良く生活しています



写真⑩緑が少ない平原です



写真⑪オボー



優しい笑顔があった
写真⑫



旅人を誰でも受け入れてくれる
写真⑬



モンゴル人は誰でしょう？
写真⑭

～高校1年生生徒の皆さんへ～

モンゴル 360° の視界

モンゴルはどんな国

1. 自然

- ①冬は_____ヶ月 ②夏は_____ヶ月
 ②夏の最高気温は_____度位で、真冬は_____度位である。
 ③晴れの日が1年間で_____日夏の最高気温は_____度位で、真冬は_____度位である。

2. 遊牧民

- ①遊牧民が飼っている家畜は_____、_____、_____、_____、_____である。
 ②家畜の乳でお酒をつくり、夏は_____の乳のお酒がよく飲まれる。これを飲んだ人がカルピスを作った。
 ③モンゴル人が好きな肉は_____の肉である。
 ④羊の肉は煮て食べるが、それはなぜか。 _____
 ⑤ゲルには_____と_____がない。
 ⑥ゲルにはソーラーがあり、_____も_____もある。
 ⑦遊牧民の生活をしてみませんか。次について○をつけてみましょう。いくつ該当しますか？

朝食はお茶か牛乳でよい		家事が好き	
乳製品がとても好き		自給自足の生活に憧れる	
肉は大好き		動物が大好き	
レバー、ホルモン等内臓が好き		星空が好き	
野菜が嫌い		小さい頃からよくキャンプに行った	
塩味だけの薄味が好き		お風呂は好きではない	
おなかはとても丈夫		好きな人と二人だけの生活をしたい	
早起き早寝である		自分の家族と静かに暮らしたい	

3. 学校

- ①教室は_____部制で午前、午後で学年が入れ替わる。_____部制の地域もある。
 ②反復ドリルに励み、_____オリンピックでいい結果を出せるよう頑張っている。
 ③遊牧民は学校で勉強するため家庭を離れ_____で生活する。
 ④学校は修理をしないため_____や_____がひどくなっている校舎がある。

4. 発電所

- ①発電のためできた熱湯は各家庭の_____となる。
 ②発電所からの熱湯が町へ送れなくなると_____時間で死亡者がでる可能性がある。

高校1年生

講演会「モンゴル 360°の視界」
＜遠くて近い国モンゴル 異文化理解 そして自己理解＞

1. 本日の感想を記入してください。

2. もっと知りたいことがあったら記入してください。

高校1年生 ____ 組 ____ 番 氏名

～高校1年生 生徒の皆さんへ～

「モンゴル360℃の視界」 みなさんの「もっと知りたいこと」の答え

※ たくさん感想、質問を書いていただき本当にありがとうございました。知っている範囲でその答えをお知らせいたします。自分自身もまだまだ勉強不足です。

○ モンゴルの人は何万人住んでいるのですか。

A：人口は約240万人 首都のウランバートルに90万人位住んでいます。

○ モンゴルの自然について知りたいです。

A：お話した気候により自然環境が作られています。気温、乾燥の度合いは場所によって若干異なるので、樹木がまったくない場所もあれば、針葉樹がある山もあります。雪はあまり降りません。

○ 詳しい家の中の様子

A：入り口を入ると右側が台所です。中央にストーブがあり、煙突があります。ソファ兼ベッドが3つ位あります。その他衣類などを収納する箆笥がいくつかあります。馬乳酒が入っている牛の皮の袋は入り口を入れてすぐ右側にあります。床は敷物が敷いてありますが、冬になるとその敷物の下に羊の糞を敷くと暖かくなる。

○ ゲルの作り方が知りたいです。

○ 冬の間の食料はどうするのですか？ 冬とかどんな風に暮らしているのか詳しく知りたいです。

A：遊牧民は冬になる前に10月頃に羊をたくさん解体し、干し肉などにして冬の間の食料に備えます。

○ 冷蔵庫ってゲルの中にあるのですか。

A：冷蔵庫はありません。冬になればゲルの回りは天然の冷蔵庫になります。

○ 冬の寒さで川が凍ってしまった時にゲルのお風呂に入るのか気になりました。

A：お湯を沸かしてたらいいに入れて、ゲルの中でお湯を体にかけます。

○ 遊牧民の遊牧はどのくらいの周期であるのか。どんな時に遊牧民は次の場所に移動するのですか。

A：家畜のための草地を求めて季節に合わせて4回移動するといわれていますが、場所によっては夏の場所と冬の場所という遊牧民もいるようです。

○ 大草原で暮らすモンゴルの人は冬になると家畜をどうしているのか？
(寒さで死にませんか?)

○ モンゴルの遊牧民の家畜以外の仕事はなんですか。

A：家畜以外の仕事はありません。自分たちの衣食住のためだけではなく、羊の毛皮を売るなど現金収入にもします。私が泊まった家のご主人は馬の調教師としていろいろな

賞を取ったようでそのメダルが飾られていました。

○ 障害者への理解がないと聞いたけど、日本はそのことについて協力しているのか？
技術を教えたり・・・

A：モンゴルでこのような仕事に関わる方を日本に招いて、日本で勉強して新たな知識を持ってモンゴルで仕事ができるようにしている。日本へ行ったモンゴルの人々が正しい知識をもっと広めてもらえるとよいのだが。

○ なぜモンゴル人と日本人が似ているのでしょうか

A：同じアジア人ですから、もともとは同じでしょうか。

○ 都市の方の生活も知りたかった。

A：都市部の生活と遊牧の生活は全く異なります。首都のウランバートルでは、マンションというか集合住宅に住む人が多いですね。一軒家は少ないです。食べる物も民主化後、スーパーにはいろいろな国の食べ物があります。ただ、ハンバーガー、ピザなどのファストフードはとても高く贅沢品ですね。モンゴル人にあまり好まれているようでもないですね。

○ どのくらいのお金でどのくらいのものが買えるのか。水の値段はいくらぐらいか？

A：お金の単位は「トゥグルク」と言います。10トゥグルクが約1円です。ミネラルウォーターが300トゥグルク位(30円)です。2000トゥグルク(200円)で飲み物付きの普通の食事が出来ます。地方に行けばもう少し安いですね。

○ モンゴルのデザート知りたいです。

A：モンゴルのデザートは特にはないですが、乳製品でしょうか。首都ではいろいろなデザートを食べることは可能です。

○ テレビ番組でモンゴルのことをやっていて、モンゴルに行く日本人は、現地は乾燥しているため、必ずリップクリームを持って行った方がよいと言っていたのですが、それは本当ですか。また、先生は持って行きましたか。

A：確かに乾燥しているので必要だと思って持って行きましたが、それほど使いませんでした。たぶん気温が下がってくる今からの方が必要でしょう。

○ もっとモンゴルの学校について知りたい。モンゴルの大学はどのくらいの学部があるのか。日本みたいに専門学校とかがあるのか。モンゴルの学生がどんなことを学んでいるのか知りたい。

A：基本的には日本と同じような学部があります。ただ授業としては大学の先生が話す内容をノートに書き写しそれを覚えるというような授業がほとんどのようです。コンピューターの専門学校で教えている隊員にもあいました。家庭にコンピューターを持っている人は多くないようで、学校内のコンピューターも充実していないようでした。

○ モンゴルの学校のことをもっと知りたい。

A：基本的に2部制ですから、午前中だけ、午後だけの授業となります。国語、算数、理



科、社会、体育で芸術的な授業の取り組み時間は少ないです。外国語はロシア語を習っているようでした。通訳さんの中には日本に一度もいったことがない人がいました。大学4年間で日本語を覚えたと言う事でした。日本の留学を希望する学生も多く居ます。そして日本はそれを支援しています。

○ 学校や寄宿舍にもトイレや風呂はあるか。

A : 校内のトイレは見てきていませんが、校庭にトイレがありましたね。寄宿舍にトイレはあると思います。風呂は分かりません。

○ モンゴルの子供たちは日本のことをどう思っているのかと知りたかった。子供たちの生き方、人々の考え方、日本人との価値観の違い。

A : 日本の歌を歌える子供たちがたくさんいますが、日本のことを知らない子供たちばかりです。日本に研修に着たモンゴルの先生からの情報以外、詳しい情報はないでしょう。ただ、日本の援助についてはよく知っているのも、とても日本に感謝しています。モンゴルの女性の先生に日本人の俳優、有名人で誰が好きか聞いてみました。それは相撲の魁皇でした。強い関取だけれど、怪我などでなかなか横綱になれないが、とても一生懸命頑張っている姿がいいそうです。魁皇はモンゴルでは男性の相撲ファンにも人気があります。

ウギノール(湖)の自然保護視察に行きました。そこで自然を消費するモンゴル人という話を聞きました。環境保全について考えが希薄であるようです。地方を車で走っていて、ごみが多いことに驚きました。大自然のモンゴルなのですが。

○ どのような遊びをしているのか知りたい。

A : 内モンゴルの果てしない草原。物がなかなか手に入らない草原。そんな草原で生活する子供達は、一体何を使って遊ぶと思いますか？答えは「羊の骨」です。羊のくるぶし部分の骨を集めて遊ぶようです。中には「200個集めた」って得意気に話すモンゴル人もいます。遊び方はいろいろで5つぐらいをパラッと撒いて、できた形でポイントを稼いだり、骨を牛や羊に喩えてあそんだり、手に何個持っているか当てっこしたりします。

○ 私はモンゴルの伝統についてもっと詳しく知りたいです。モンゴル相撲やホーミーというのを知りたいなと感じました。伝統の踊りなどがあれば知りたいです。

A : 現地のコンサートホールで見た民族舞踊とその音楽は中国的なものでした。モンゴル人に感想をそのように話すと、中国がモンゴルに似ているといいました。使われた楽器は馬頭琴、三味線(日本のものより長い)、琴、管楽器(民族楽器)などです。この楽器編成で西洋音楽も演奏しました。ホーミーは倍音を利用して一人で低音と笛のような高音を出す歌唱法です。今、あるCMで聞くことが出来ますね。モンゴル相撲は横綱の朝青龍の活躍で一躍脚光を浴びているモンゴルの伝統的なスポーツです。13世紀のチンギス・ハーンの時代に兵士の身体を鍛えるために用いられていたとされ、現在

のモンゴルでも大変に人気のあるスポーツです。試合の順序は、まずザスールと言われる2人の行司がそれぞれ選手につきまします。上位の選手につくザスールが戦いの挑戦の謡(ツォル)を唱え、選手はザスールのまわりを鳥が飛ぶようなしぐさで舞います。ルールは、ひじ・ひざ・お尻のいずれかが先に地面についた方が負けとなります。日本の相撲とは異なり、手の平が地面についても負けにはなりません。また土俵がないので、押し出しやつり出しといった技はありません。試合が数時間に及ぶこともあります。

○ モンゴルの民謡とか民俗学の分野のこと

A：モンゴルの民謡は日本の演歌、民謡ととても似ています。馬子唄はモンゴルから伝わったのではないかとされています。こんな所からも民族的に近いことを感じます。

○ モンゴルの楽器について 馬頭琴について

A：講演会で見せたのが馬頭琴です。『スーホーの白い馬』で皆さんも知っているかもしれませんが。弓も弦も馬の毛で作られていますが。乾燥しているモンゴル以外では弦はナイロン製の方が良いようです。

○ モンゴルの行事や、習慣が知りたい。モンゴルのイベントや結婚式など

A：ナーダムがモンゴル最大のイベントです。7月11日を革命記念日と定めています。記念日を祝す意味を兼ねて「ナーダム」と呼ばれる祭りが各地で開催されます。首都ウランバートルのナーダムは7月11日～13日の日程で行われます。ナーダムの呼び物はモンゴル相撲大会・子ども競馬大会・弓射大会が行われます。

結婚式を終えたカップルを見ました。女性は白いウエディングドレスで男性も白のタキシードでした。民族衣装のデールを着ているのはお年寄りだけでしたね。

○ モンゴルの女の人の民族衣装などを見たかった。

A：女性のデールも男性と同じようなものです。

○ 衣装はどうしたのですか。

A：現地のデパートで購入しました。

○ もっとモンゴル語を知りたい。モンゴルならではの、挨拶など気になりました。

日本語	モンゴル語	日本語	モンゴル語
こんにちは	サエンバイノー	おいしい	アムトウタエ
私の名前は〇〇です	ナマエーグ 〇〇 ゲテク	いくらですか？	ヤマル ウンティ ウェ？
ありがとう	バヤラルラー	これを買います	ウーニーグ アウイ
どういたしまして	ズゲール ズゲール	寒いです	ダールチ バエン
ごめんなさい	オーチラレー	お腹が痛いです	ゲテス ウブドウッチ バエン

さようなら	バイルタエ	写真を撮ってもいいですか？	ゾラグ アブチ ボル ホー？
また会いましょう	ダラー オールジィ		

○ 先生はモンゴル語がしゃべれるのですか。通訳の人が一緒にモンゴルに行ったのですか。

A：移動中の車の中でモンゴル人の通訳さんから教わりましたが、挨拶程度でしゃべれません。JICAの現地スタッフがいつも同行して通訳してくれました。

○ 夜空、星空の話。どのくらい星が見えるのでしょうか？

A：たくさん見えます。空気が良いことと、遊牧民の家の周りは電気がありませんので、真っ暗になるためですね。天球儀に近いものがあるのではないのでしょうか。

○ モンゴルでの青年海外協力隊の活動について知りたいです。

A：職種は様々です。教員(幼稚園、小学校、大学、専門学校)、建築関係、環境保全、スポーツ指導員、公共施設の管理・保全などなど

○ JICAの他の活動について知りたいです。

A：日本にとって ODA(政府開発援助)は、国際貢献の主要な手段です。ODAの一端を担う JICA(国際協力機構)は「日本の平和と繁栄は、世界の平和と安定なくしてはありえない」という考えのもと、平和で豊かな世界の実現を目指して日々努力しています。国際協力を行うに当たって、JICAが心がけていることは、第一に、開発途上国のニーズに的確かつ迅速に応えられるよう、現場の声、現場の目を大切にすること。第二に「人間の安全保障」の視点を取り入れて活動すること。第三に、独立行政法人として、事業の効果・効率性を一層高めていくことです。1954年にスタートした日本の ODAは2004年には50周年を迎えました。《JICA 理事長 緒方貞子氏挨拶文より》
開発途上国の社会や経済が自立的に発展できるよう、人を通じた国際協力を行っています。機材や物資などの物を渡すだけでは協力になりません。開発途上国社会とそこに住む人々の発展への道を開くため、日本や世界、途上国の人々の知識や経験を結ぶ架け橋となり、開発途上国自身の問題解決能力を高めることを目指して活動しています。

○ JICAの海外研修は全額自分で負担して行ったのですか？

A：現地での活動費用、ホテル代金、食事代などは個人持ちで、航空費用、交通費などは JICA が負担します。

平成 17 年度教師海外研修（派遣国：モンゴル）実践報告書

千葉県立千葉西高等学校
小関 勇次

タイトル 「明日のモンゴル」＝プロジェクトX（モンゴル開発構想）
実践教科 地理A（時間数：4時間）
対象生徒・学年 1年生
対象人数 40名

カリキュラム案

(1)実践の目的

「国際理解教育」と「開発教育」を目的として開発途上国モンゴルを取り上げる。学習指導要領では（2）地域性をふまえて捉える現代世界の課題 ア）世界の生活・文化の地理的考察イ）近隣諸国の生活・文化と日本の単元に該当する。ここでは地域性の理解だけでなくモンゴルが取り組んでいる課題と日本の果たすべき役割など国際協力の必要性を重視する。モンゴルについて事前に調べ、発表させ、古いイメージや誤った認識については、授業担当者が取材した実際のモンゴルの現状と比較し矯正させる。モンゴルの最新の現状から課題や問題点を指摘し、モンゴルの国づくりや自立をテーマとした「明日のモンゴル」＝プロジェクトXを検討させ、発表させる。授業を通じて生徒にグローバルな思考を育み、国際社会に貢献できる資質を養うことを授業の目標とした。

(2)授業の構成案

時限・テーマ・ねらい	方法・内容	使用教材
1 限目 (1)モンゴルの事前調査	(1)文献・インターネットを通じてモンゴルについて調べさせる。 (2)モンゴルの概要を理解させる。	(1)文献資料 (2)インターネット情報
2 限目 (1)モンゴルの生活と文化 (2)モンゴルと日本の比較	(1)モンゴルの自然環境や社会環境 生活と文化など発表。 (2)日本・モンゴル比較（共通性と異質性）。	(1)生徒発表プリント (2)地図帳 (3)インターネット情報
3 限目 (1)モンゴルについて認識の問い直し (2)モンゴルの課題・問題点	(1)授業担当者のモンゴルの取材報告（モンゴルの生活・文化と教育事情）。 (2)モンゴルの課題・問題点を指摘させる（内陸国・ロシアの影響と中国の脅威・ウランバートルへの一極集中・近代化の進む遊牧生活・教育政策と教育事情・ODA と青年海外協力隊員の活動など）。	(1)モンゴルの取材写真 (2)実物教材（食べ物・民族衣装・楽器・モンゴルの教科者・紙幣・ゲル模型・道具など）
4 限目 (1)モンゴルの開発構想 (2)モンゴルの将来予測 (3)日本の貢献と国債協力	(1)モンゴルの自立（開発構想）の検討。 (2)「明日のモンゴル」＝プロジェクトX。 (3)日本の果たすべき役割と自分にてできることなどディスカッション。	(1)JICA 資料・パンフ (2)協力隊員報告書

【はじめに】

本年度 JICA の教師海外派遣として訪れたモンゴルは国際理解教育を推進できる単元として、地理 A の学習指導要領の目標である「現代世界の課題」を「身近な地域の国々の生活文化」を理解させるうえでも絶好の単元といえる。

同種のモンゴロイドであり、日本人の祖先とも思えるモンゴルの現状はあまりも対照的である。大陸と島国、遊牧と米作、開発途上国と先進工業国など、この違いはなにか。今回の授業では、モンゴルの地域性の理解のみならず、「地理教育」と「開発教育」を統合したものにしたいと考える。そのためには取材を通じて得られた最新モンゴルの現状を伝え、日本と比較・検討させ、モンゴルの課題や問題点を指摘し、「明日のモンゴル」を創造させることを授業の目標において実施した。このような授業を通じて、生徒がグローバルな思考を育み、国際社会に貢献できる資質を養うことができると願っている。

【検証授業の概要】

高等学校地歴科 地理A 第1学年で実施した。単元は身近な国々の「生活と文化」モンゴルに出発する前にこの授業の導入部としてモンゴルのイメージを問うことにした。テーマは「モンゴル知っていることなんでもランキング！」

(解答多数の順位 40人で調査 複数回答可)

- ①朝青龍 相撲(モンゴル出身の力士の名)37人
- ②チンギスハン(元寇)32人
- ③草原・高原(砂漠)25人
- ④ゲル(パオ)25人
- ⑤スーホの白い馬(羊)5人
- ⑥ウランバートル5人
- ⑥蒙古斑3人
- ⑦ノモンハン事件1人(これはスゴイ)
- ⑦司馬遼太郎1人(司馬は大阪外国語大学蒙古語科卒で『街道を行く』を読んだという。これはもっとスゴイ！)

①から④までは想像していたとおりの結果である。しかし、何も書かないで提出した生徒も4名。万里の長城や狩猟民族などの解答もあり、地域や民族を混同した者も4名いた。

【1限目】

学校図書館やインターネットを通じてモンゴルの地誌について課題として扱い、各自調べさせた。Mongolia Report として以下の内容を把握させることがねらい。

- ①モンゴルの概要データ記入。(位置、面積、人口、1人当たり GNP、産業別人口、民族、言語、宗教等)
- ②モンゴルの国旗を描き、その意味を説明する。
- ③モンゴルの白地図を描く。(およその自然環境の理解)
- ④モンゴルの地誌で一番興味を持った内容を書く。

これらの作成した内容は、情報入手の手段からほぼ同じ内容となり、基礎的なモンゴルの概要を知る上では効率が良い。
※生徒の作成したサンプルを参照

【2 限目】

数名の発表（2～3名くらい、1人5分程度）発表者のプリントはマスプリして配布。モンゴルについての共通理解を目的とする。特に、日本との異質性に重点を置き指摘させる。異質性を整理するためにワークシートに記入させた。

日本とモンゴルの比較

World book Atlas 2003 他

日・蒙比較	日 本	モンゴル
位 置	極東アジア 島国	内陸アジア 内陸国
面 積	約 37.8 万km	約 157 万km(日本の約 4 倍)
人 口	約 12700 万人	約 260 万人 (日本の約 50 分の 1)
GNP ※	約 36600 ドル	約 400 ドル (日本の約 90 分の 1)
産業別人口	1次 5.1%, 2次 30.7%, 3次 63.6%	統計不明 農業従事者数 31 万人
衣	伝統的衣装 着物	伝統的衣装 デール
食	米(ごはん) 菜食 魚介類	パン 馬乳酒 羊肉
住	伝統的木造家屋～高層マンション	伝統的ゲル～アパート
家 族	核家族、少子高齢化	大家族、血縁社会
都 市	臨海部(港湾)発達、新都心や再開発	ウランバートルへの一極集中
産 業	重化学工業～高度情報産業中心	遊牧と都市労働者(二極化)
資 源	鉱産資源の輸入依存度は 90%以上	自給自足
近現代史	敗戦(GHQ)、高度経済成長、バブル	ソ連社会主義の影響、経済の自由化

※GNPは1人当たりのGNP(ドル)

【3 限目】

【写真 1】 デールを着て授業 (上) 教材 (下)

モンゴルに対して、誤った認識やマイナスイメージについては矯正させる必要がある。開発途上国を正しく理解することと、差別と偏見の除去を目的とする。そこで、自ら体験したモンゴル生活や最新で正確なモンゴルの現状を伝え、取材した写真や生活道具や資料などを提示して、「リアリティ」のある授業を展開する。さらにモンゴルの独自の取り組み及び日本のモンゴル支援の現状などを報告し、国際協力の必要性を理解させる。「リアリティ」を追究した授業であるので、「パフォーマンス」も取り入れる。現地で購入した民族衣装を身にまとい登場する【写真 1】。

取材した写真等は Presentation で示した。すでに生徒が調べ学習によって、モンゴルの概要は理解しているので、内容はモンゴル「衣」「食」「住」を中心とした生活と文化に重点を置く。特に食文化の違いについて、「羊の解体」に大きな関心を示した。

これは事前に予想されたことであるが、「生命」を扱う単元としてでなく、遊牧の営みを通じて、遊牧生活の生きるための手段であり、「食」に感謝する態度を養うことを目的とした方が良い。このようなことから日本人が「鯨」を食し、アメリカ人が「牛」を食すように、食文化を通じて異文化を理解し、尊重する態度が生まれるように思える【写真 2】。



【写真2】羊の解体「ホルホグ」のできるまで



①家畜の羊1頭をシメる



②皮剥ぎ 出血させないことがコツ



③解体して取り分ける



④内臓も無駄にしない（腸詰）



⑤調理（蒸し焼き）



⑥「ホルホグ」の出来上がり

次に、「明日のモンゴル」を考えさせる材料として、取材で得た幾つかの課題を指摘する資料や写真を紹介する。例えば、①ゲルのソーラーシステム ②ストリートチルドレンデイケアセンター ③ウランバートルの人口集中（住民登録に並ぶ行列や交通事情など） ④ウランバートル郊外の住宅 ⑤スーパーマーケットの商品 ⑥学校建設プロジェクト ⑦ソビエト社会主義の影響 ⑧協力隊員の活動などをとり上げる【写真3】。これらの写真からモンゴルの課題を検討し、モンゴルの将来や、自立の可能性を考察させる。すべてマイナスイメージにならないような配慮は必要であり、「もし君がモンゴルの大統領であったら、どんな国づくりをはじめるか」というような建設的な課題とする。

これらを4限目の「明日のモンゴル」＝プロジェクトXの課題とする。

【写真3】 「明日のモンゴル」 = プロジェクトXの資料となる写真



①ソーラーシステムは遊牧民の必需品



②ストリートチルドレンの施設



③住民登録を待つ人々（ウランバートル）



④ウランバートルへの一極集中



⑤羊の乳酸加工品が並ぶスーパー



⑥学校建設は住民参加で（小学校）



⑦レーニンの肖像画のアパート



⑧テニスを普及させる協力隊員

【4 限目】 「明日のモンゴル」 = プロジェクト X

課題としたワークシートを発表させる。モンゴルの「課題」と「可能性」の両面を指摘させる。以下に生徒の解答を紹介する。

○モンゴルの課題

- ①乾燥と寒冷な国土。 (きびしい自然環境の克服)
- ②高原と草原と砂漠が広がる単調な国土。
- ③内陸国で港がないハンディキャップ。 (貿易できない)
- ④鉄道や道路がない。学校も病院もない。 (社会資本が未整備)
- ⑤遊牧生活からの生活転換、生活様式の転換、意識の改善が必要。
- ⑥耕作不可能な国土。食糧不足が心配。
- ⑦ロシアのサポートがなくなったこと。 (よかったという意見もあり)
- ⑧ストリートチルドレンや未就学などの教育が問題。
- ⑨ウランバートルの一極集中が問題。 (交通問題、住宅問題、犯罪など)
- ⑩日本、韓国、中国の経済下に置かれる。 (経済的支配を受けるかも)

○モンゴルの可能性 「明日のモンゴル」

- ①自然を活かした観光開発。例えばゴビ砂漠ツアー、草原キャンプ、遊牧体験、極寒体験ツアー、エコツアー、グリーンツーリズムなど。
- ②国際空港を整備する。アジアの中心にあるので交通都市として栄える。
- ③国際交流。相撲、乗馬、伝統音楽(馬頭琴やホーミー)、留学、日本やアメリカのホームレスやニートはモンゴルでの遊牧生活をする。など人的交流を盛んにする。
- ④自給自足経済が確立しているので日本より安定している。「環境保全型の農業」や「持続可能な開発」を続けることがモンゴルの実力となる。
- ⑤日本は「人余り」、「お金余り」なので青年海外協力隊やシニア海外ボランティアに派遣する。
- ⑥モンゴルの教育水準は日本を越えている。「ゆとり教育」の日本も見習うべきだと思う。
- ⑦学校を住民参加で建設するプロジェクトは日本も見習うべきだ。学校は学校で、地域は地域住民で築いている。本来の地方自治を実践している。
- ⑧遊牧民に対応する移動式の学校の建設をする。
- ⑨モンゴル人のほうが「本当の豊かさ」を持っている。自然と調和して生きている。人間として生きていくための必要な食料だけを生産(飼育)していること。大家族で協力し合っていることなど。
- ⑩イベント企画が欲しい。例えば、世界相撲選手権大会、競馬のグランプリ、クロスカントリー、砂漠横断オートレース(パリ=ダカのような)。
- ⑪自然エネルギーの開発を進める。ソーラーシステムは遊牧生活に不可欠であり、その他にも風力や、バイオマスエネルギーの開発も可能。家畜の糞を燃料やエネルギーに代えていくシステムを開発する。
- ⑫乾燥した内陸国であるので、水の確保が必要。運河の建設や下水道の整備が必要と思う。
- ⑬中国と経済協力すること。中国の港を利用しなければ貿易も改善しない。
- ⑭羊肉や羊の畜産加工や乳酸加工品の生産を増やす。牛や豚に比べて消費が少ないので、モンゴル料理店を世界に進出させる。馬乳酒は健康飲料として絶対に売れる(モンゴル料理を食べたことのある生徒)。
- ⑮ODAを増やすことだけでは自立できない。JOCVは無給と聞いたのでそちらの方に予算をまわす。海外に派遣した志のある人々の生活を支えるために使う。
- ⑯遊牧民のライフスタイルは先進国が見習うべきだ。

【おわりに】

「明日のモンゴル」＝プロジェクトXには極端な意見もあるが、生徒の考えるレベルとしてはしっかりとしている。このような学習プログラムは地理教育を通じて開発教育を推進できることが可能であるだけでなく、問題解決型の学習としても有効である。また、発言を通じて生徒の自己表現能力も養うこともできる。

モンゴルの開発を今回のテーマとしたが、授業をプロジェクトXとしたのはNHKで放映された番組をヒントにした。(残念ながら昨年放送終了)戦後、奇跡の復興を果たし、高度経済成長を経て日本を先進工業国に押し上げた日本人の賛歌であるが、単なる「開発」でなく、実にヒューマニズムあふれる感動的な番組であった。ここに「明日のモンゴル」を考えるアイデアが見つかると思ったからである。

資料

【資料1】調べ学習の課題として作成した Mongolia Report (A4 サイズ 2枚 75%縮小)

The report is titled "Mongolia Report" and is divided into several sections:

- 歴史 (History):** Discusses the Mongol Empire and its impact on the world.
- 地理 (Geography):** Describes the location of Mongolia, its borders, and its climate.
- 文化 (Culture):** Explains traditional Mongolian customs, including the Naadam festival and the importance of horses.
- 人口 (Population):** Provides a table of population statistics.
- 言語 (Language):** Discusses the Mongolian language and its script.
- 経済 (Economy):** Describes the primary industries of Mongolia, such as mining and agriculture.
- 政治 (Politics):** Explains the political system of Mongolia.
- 観光 (Tourism):** Lists popular tourist destinations and activities.

The report also includes a map of Mongolia, a table of population statistics, and various illustrations, such as a traditional Mongolian tent and a horse.

項目 (Item)	数値 (Value)
人口 (Population)	3,000,000
面積 (Area)	1,500,000 km ²
人口密度 (Population Density)	2 people/km ²

【資料2】

「明日のモンゴル」 = プロジェクト X ワークシート

組	番	名前	評価
---	---	----	----

Q1 モンゴルで一番関心を持ったことは何か。

Q2 日本とモンゴルを比較する表を完成させなさい。

日・蒙比較	日 本	モンゴル
位置	極東アジア 島国	内陸アジア 内陸国
面積		
人口		
※GNP		
産業別人口		
衣		
食		
住		
家族		
都市		
産業		
資源	鉱産資源の輸入依存度は 90%以上	自給自足
近現代史	敗戦(GHQ)、高度経済成長、バブル	ソ連社会主義の影響、経済の自由化

※GNP は 1 人当たりの GNP(ドル)

Q3 モンゴルの課題や問題点を検討してモンゴルの自立への道を提案しなさい。
 テーマは「明日のモンゴル」 = プロジェクト X